

MIS036-P127

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 14:15-16:15

## 仙台平野若林区の沿岸低地を遡上した津波の堆積物の特徴 Characteristics of the recent onshore tsunami deposits in coastal lowland, Wakabayashi-ku, Sendai plain, eastern Japan

高清水 康博<sup>1\*</sup>, 卜部 厚志<sup>1</sup>, 鈴木幸治<sup>1</sup>  
Yasuhiro Takashimizu<sup>1\*</sup>, Atsushi Urabe<sup>1</sup>, Koji Suzuki<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 新潟大学

<sup>1</sup> Niigata University

仙台市若林区において、平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震により発生した津波による堆積物の記載を行った。その結果、以下のことが分かったので速報する。

1. もっとも海側の砂丘付近は侵食域である。
2. 砂丘の内陸側に砂丘や海浜等から運搬された堆積物が認められた。
3. 津波堆積物は、海側で厚く、かつ粗い。一方、陸側では薄く、細粒である。
4. 多くの津波堆積物には平行葉理が観察された。斜交葉理は最上部に稀にみられる。
5. 海側の津波堆積物は、侵食力のある流れで、基底部にマッドクラストをよく含む。
6. 津波流の停滞や津波後の静穏な水域があったことを示すマッドドレープがよく見られた。
7. 戻り流れからの堆積物はまれである。

キーワード: 津波堆積物, 仙台, 平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震

Keywords: tsunami deposits, Sendai, The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake